

企画展等展示テーマ一覧	
昭和57年	「出土品にみる古代人の生活」「縄文の美」 「絵地図にみる郡山宿場」「近世の租税」 「第3回特別展 古川猛氏寄贈の資料展」
昭和58年	「郡山の原始・古代」～出土品にみる生活展 「古文書にみる女性の生活」
昭和59年	「古文書からみる戊辰戦争と郡山」 「昭和57・58年度発掘調査概要」 「出土品にみる奈良・平安時代の郡山」
昭和60年	「墓制の変遷展」「近世一揆訴訟」
昭和61年	古文書にみる「安積開拓の実像」 「原始古代の発掘出土品」
昭和62年	「近代郡山の発展と鉄道の役割」
昭和63年	「近世の旅」一湯治・参詣旅行にみる庶民の行楽
平成元年	「江戸時代後期の農村復興と福祉政策」 「安積開拓・市政施行と戦時下の郡山」 「館ノ越遺跡模型展示」
平成2年	「近世の教育」一農工商三民の教化政策 「郡山の逸品」「安積開拓・安積疏水」
平成3年	「郡山の災害資料展」一二本松藩を中心として 「正直27号墳出土土人骨模型」
平成4年	「郡山地域の古墳時代の人々」
平成5年	「守山藩領における地割制度」上行合村・金屋村を中心として 「むかしのがっこう・いまのがっこう」
平成6年	「宿場にみる郡山」一安積七宿
平成7年	「阿武隈川と人々の暮らし」
平成8年	「なつかしい生活用具展」
平成9年	「安積疏水と郡山の発展」 「戦争資料展」一写真パネルを中心に
平成10年	「古文書でたどる近世農民の生活」一二本松藩の資料を中心に 「なつかしい生活用具」「戦争資料展」
平成11年	「安積開拓・疏水」・「郡山の文化財」パネル展示 「絵図で読む郡山の江戸時代」一二本松藩の資料を中心に 「大安場1号墳」パネル展示
平成12年	「江戸郡山事件簿」一地方文書からみる江戸時代の刑罰
平成13年	「郡山地域の水車屋」一地方文書を中心に
平成14年	「和紙・紙・ペーパー」
平成15年	「幕府巡回使と藩主の巡視」一地方文書を中心に
平成16年	「江戸時代の芸能と文化」一江戸時代のネットワーク社会を見直す（郡山市制施行80周年・合併40年記念）

平成17年	「鉄道と明治の世相」一郡山地域を中心に
平成18年	「江戸時代の少子化対策」一二本松藩を中心に
平成19年	「黒船が来た」一郡山地域の諸藩の対応
平成20年	「犬・馬・雉」一動物からみた江戸時代の世相
平成21年	「江戸時代の印刷文化」一村の蔵書家達 「江戸時代の印刷文化」一滝沢馬琴の世界
平成22年	「近世河川絵図展」
平成23年	「郡山の地租改正」
平成24年	「境界の争い」一他領との争い二本松藩鍋山村VS旗本三枝領 一新田開発による秣場減少の争い
平成25年	「人名に刻まれた歴史」一収蔵資料展
平成26年	「資料でみる安積疏水」一灌漑・発電・上水道 (郡山市制施行90周年・合併50年記念企画展)
平成27年	「郡山宿の賑わい」一その光と影
平成28年	「民衆の叫び」一江戸時代の史料を読む
平成29年	「江戸時代の危機管理」一公助・互助・自助
平成30年	「郡山と戊辰戦争」一百姓達の幕末・維新
令和元年	「三島通庸と県庁移転運動」一地域振興をめぐる人々
令和2年	「街道・宿場」一行き交う人・物
令和3年	「旧二本松藩士族と大槻原開墾」一桑野村ものがたり
令和4年	「郡山地域の池・堰」一近世の水資源
令和5年	「廻米」一守山藩・二本松藩の事例



⑤ 「(仮称)歴史情報・公文書館」外観・展示室(イメージ)

### 「(仮称)歴史情報・公文書館」の建設

資料館は築66年経過による老朽化、相次ぐ震災で市内旧家所蔵史料の保管・保存環境の悪化が課題となっています。また、2014(平成26)年2月に歴史愛好家の市民団体から「総合的な歴史資料館建設」の要望が市に提出され、同年12月より「市歴史資料保存整備検討委員会」を開催し、「(仮称)歴史情報・公文書館施設整備事業」(以下、「歴公館」)が展開され、現在、令和6年度末の開館を目指し施設の整備を進めているところです。当館は、令和6年1月より中央図書館に仮事務所を移転し、歴公館開館準備にあたり、当館施設は令和6年4月より解体工事が行われ、跡地は整備されます。



郡山市は2024年に市制施行  
100周年を迎えます!!

ひらけ 未来へ こおりやま

## 郡山市歴史資料館の軌跡

The History of  
Koriyama City Historical Museum



昭和50年頃の公会堂・図書館・市民会館

1982(昭和57)年、郡山市図書館付属歴史資料館として開館。令和6年度末に42年間の歴史に幕をおろし、(仮称)歴史情報・公文書館として生まれ変わります。

郡山市歴史資料館編集発行

## 歴史資料館の歩み

郡山市歴史資料館（以下 資料館）

は、1958（昭和33）年4月「福島県立図書館郡山分館」を併設して新築落成した「郡山市図書館」の施設を利用してきました。令和5年現在、築65年が経過します。建物自体、東日本大震災と2度の福島県沖地震に耐えた昭和のレジェンドともいえる建物です。資料館の歴史を振り返ってみましょう。

### 「歴史資料館」から「(仮称)歴史情報・公文書館」へ

1958（昭和33）  
4月

福島県立図書館郡山分館を併設した郡山市図書館として新築落成 ①  
旧武徳殿から図書館の機能を移転



① 昭和33年「福島県立図書館郡山分館」併置という形で「郡山市図書館」が新築開館しました。

9月

市制施行35年、市民会館落成式に合わせて新館落成式典

11月9日

午後4時、三笠宮崇仁親王殿下、新館ご来館し市長ら館内案内 ②

② 昭和33年11月 三笠宮崇仁親王殿下の新館への御来の光栄に浴しました。市長以下、教育委員長、館長らが館内施設を案内しました。世界的考古学者である殿下のご来館に一同恐縮したそうです。



1959（昭和34）年

元禄以来明治に至る200年間の今泉家文書が図書館に寄贈される。

1960（昭和35）年

「郡山郷土史展」開催

1962（昭和37）年

「郡山水道の歴史展」開催

1963（昭和38）年  
4月

初版「郡山の歴史」編集開始  
昭和40年1月に発行

1966（昭和41）  
10月

明治百年を記念して本格的な「郡山市史」編さん事業開始  
教育委員会に市史編集室を設置

1975（昭和50）年  
3月

「郡山市史」全11巻編さん完了

1981（昭和56）年

中央図書館開館

1982（昭和57）年  
4月1日

中央図書館附属歴史資料館開館 ③ ④  
1階一部を「(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団」に貸室



③ 昭和57年 中央図書館の新築落成に伴い、旧図書館の内部改装及び陳列ケースなどの備品を配置し、図書館附属歴史資料館として開館しました。



④ 昭和57年 図書館附属歴史資料館の開館に伴い、橋本捨五郎氏より原寸大の「三春馬車鉄道」の復元模型が寄贈されました。

1988（昭和63）年  
5月30日

郡山市図書館収蔵資料目録2冊発行

2001（平成13）年  
4月1日

郡山市歴史資料館として独立運営

2011（平成23）年  
3月11日

東日本大震災発生 震度6弱観測  
東京電力福島第一原発事故

2011（平成23）年

震災被害及び復旧のため休館

2020（令和2）年  
4月18日～5月15日

新型コロナウイルス感染拡大により「緊急事態宣言」発令休館

2021（令和3）年  
2月14日～3月7日

福島県沖地震発生 震度6弱観測  
復旧作業のため休館

2021（令和3）年  
8月23日～9月23日

県「まん延防止等重点措置」適用  
感染防止のため休館

2022（令和4）年  
3月17日～3月22日

福島県沖地震発生 震度5強観測  
復旧作業のため休館

2023（令和5）年  
12月28日

「(仮称)歴史情報・公文書館」（以下「歴公館」）施設整備に伴い当館での業務終了。

2024（令和6）年  
1月4日

「歴公館」開館まで中央図書館に事務所を移転し業務を行う。

4月

資料館解体開始 跡地整備

8月末

「歴公館」竣工予定

令和6年度末

「歴公館」開館予定 ⑤



2階常設展示室



3階企画展示室

資料館は、市民の皆様にご覧いただくために歴史資料を公開・展示し、併せて、調査・研究・学習のための資料の閲覧サービスを行ってまいりました。館内2階は常設展示として、

しろがねつくりのたち くんが

市内遺跡出土の石器や土器、銀作大刀、郡衙跡とされる清水台遺跡出土の瓦、市史編さん時に旧家から提供を受けた江戸期の古文書等を展示しました。3階は民俗資料や戦争関連の展示、年度ごとにテーマを変えて企画展を開催してきました。所蔵している史料は二本松藩の郡山上町名主今泉家、守山藩御用留帳などの近世文書を有しており、目録は38集まで刊行しています。主な業務として、所蔵資料の整理・保存、収蔵資料目録作成・発行、郷土誌製本、史料の修復等を行っています。事業としては年2回の「市民史跡文化財めぐり」、年3期の「古文書教室」、学芸員による市民出前講座、小中学校への出前講座、学芸員養成の博物館実習を行ってまいりました。また、一時当館に市埋蔵文化財発掘調査事業団が併設されていた関係で「市民考古学教室」が開催された時期もありました。また、地方史研究会の協力を得て、毎年一定期間当館所蔵の古文書「筆耕」事業も行っています。

旧図書館が新築落成した翌年、当時の秀瀬市長が市史編さん事業を提案しますが、実現はしませんでした。数年後、当時の図書館が中心となり教育委員会や社会教育課・地方史研究会が協力し、市学務課が戦前に編さんした「郡山市誌稿」数千枚を資料に、1963（昭和38）年4月から約2年間かけて、初の郷土誌「郡山の歴史」を発刊（昭和40年1月）しました。

更に、1966（昭和41）年10月、市長は大同合併により成立した新しい郡山市の誕生と明治100年を記念し本格的な「郡山市史」全11巻の編さんに着手し、教育委員会に「市史編さん室」を設置して、1975（昭和50）年3月に「郡山市史」全11巻の編さんを完了させています。